令和６年度

事　業　報　告　書

自：令和６年４月　１日
至：令和７年３月３１日

公益財団法人　琵琶湖・淀川水質保全機構

概　　況

令和６年度は、健全で安定した経営基盤の維持、公益実現への貢献ならびに社会からの期待に相応しい事業運営を目指すことを使命に、積極的に事業活動の展開に取り組んだ。

管理運営活動では、所要の会議を招集による開催、Web会議システムを利用した開催、また書面による決議の省略を組み合わせて実施することにより、関係者との協議・合意形成を図った。

また、事業活動では、琵琶湖・淀川水系の健全な水環境の実現のための調査研究、広報啓発、活動支援事業について、Webシステムを併用した成果報告会の開催や活動報告の紹介等を行うとともに、現地開催により行われたイベントに積極的に参加し、対面による啓発事業を行った。あわせて、ソーシャルメディアを活用した機構の活動紹介を行うなど、引き続き「飲める水　遊べる水辺　次世代に」をキャッチフレーズとして掲げ「遊んだり、泳いだりするのに適した河川や湖にする」という目標を実現するため、琵琶湖・淀川水系が抱える水環境課題の解決に資する取組みを実施した。

Ⅰ．管理運営活動等

１．評議員会、理事会、評議員会・理事会幹事会等

評議員会、理事会、評議員会・理事会合同幹事会を開催し、事業運営全般について検討・審議を行った。

（１）評議員会

第１回評議員会（決議の省略）

評議員会運営規程第９条の規定に基づく決議の省略により、下記事項につき令和６年５月１３日に評議員会の決議があったものとみなされた。

・議　　案：・評議員の選任
　　・理事の選任

第２回評議員会

・日　　時：令和６年６月２６日　午前 10 時 00 分～午前 11 時 05分
・場　　所：大阪府立労働センター　６階６０４会議室
・議　　案：・令和５年度事業報告及び決算書類の承認
・報告事項：・次期(R８～10)あり方検討に向けた今後の予定

第３回評議員会

・日　　時：令和７年２月２５日　午後２時５５分～午後４時００分
・場　　所：一般社団法人近畿建設協会　会議室Ｄ
・議　　案：・基本財産の処分の承認
　　・令和６年度収支計算書（補正）の承認
　　・令和７年度事業計画書の承認
　　・令和７年度収支予算書・資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類の承認
・報告事項：・令和７～８年度学術委員
　　・次期(R８～10)あり方検討に向けた事務局検討状況
　　・琵琶湖・淀川流域水質保全に関する検討会

（２）理事会

第１回理事会（決議の省略）

定款第 36 条の規定に基づく決議の省略により、下記事項につき令和６年４月２５日に理事会の決議及び報告があったものとみなされた。

・議　　案：・令和６年度第１回評議員会を決議の省略で実施
　　・顧問選任の同意

第２回理事会

・日　　時：令和６年６月４日　午後１時 30 分～午後２時３５分
・場　　所：当機構事務所（Web 会議システムを使用）
・議　　案：・令和５年度事業報告及び決算書類の承認
　　・令和６年度第２回評議員会の招集
・報告事項：・理事長・常務理事の職務の執行の状況
　　・次期(R８～10)あり方検討に向けた今後の予定

第３回理事会（決議の省略）

定款第 36 条の規定に基づく決議の省略により、下記事項につき令和６年７月１９日に理事会の決議があったものとみなされた。

・議　　案：・顧問選任の同意

第４回理事会

・日　　時：令和７年２月１４日　午後３時００分～午後４時２０分
・場　　所：当機構事務所（Web 会議システムを使用）
・議　　案：・令和６年度収支予算書（補正）の承認
　　・令和７年度事業計画書の承認
　　・令和７年度収支予算書・資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類の承認
　　・重要財産（基本財産）の処分の承認
　　・特定資産の取崩しの承認
　　・令和６年度第３回評議員会の招集
・報告事項：・理事長・常務理事の職務の執行の状況
　　・理事長専決報告（職員給与規程の一部改正）
　　・令和７～８年度学術委員
　　・次期(R８～10)あり方検討に向けた事務局検討状況
　　・琵琶湖・淀川流域水質保全に関する検討会

（３）評議員会幹事会・理事会幹事会

第１回評議員幹事会・理事会幹事会合同会議

・日　　時：令和６年５月２７日　午後１時１５分～午後２時４５分
・場　　所：当機構事務所（Web 会議）
・議　　題：・令和６年度第２回理事会の案件
　　・令和６年度第２回評議員会の案件

第２回評議員会幹事会・理事会幹事会合同会議

・日　　時：令和７年２月３日　午後１時００分～午後２時４５分
・場　　所：当機構事務所（Web 会議）
・議　　題：・令和６年度第４回理事会の案件
　　・令和６年度第３回評議員会の案件

Ⅱ．事業活動等

令和６年度は、引き続き琵琶湖･淀川流域における水環境問題を流域全体で解決するための一翼を担い、「飲める水　遊べる水辺　次世代に」をキャッチフレーズに、調査研究事業、広報啓発事業および活動支援事業を実施した。

１．水質保全調査研究事業

（１）水質保全調査研究開発事業(自主事業)

琵琶湖・淀川流域は2府４県に跨っており、関係機関からニーズのある課題、広域的な課題または単独の府県市で解決しづらい水質問題や共同連携による取り組みが効率的な水質課題の解決を目的として調査研究を進めている。

流域の水質・水環境情報や成果は当機構のホームページ上に公開するとともに、関係府県・機関の施策等に活用してもらえるよう、評議員会、理事会、幹事会の他、研究助成成果報告会等の機会を利用し、研究成果の情報・知見の提供に努めている。令和６年度に実施した調査研究は以下の通りである。

① 木津川上流における水質保全のための調査研究【継続】

これまで、流域全体の水質保全の観点から、流域の最東南に位置する木津川上流域の名張川における平水時・降雨影響時調査を実施し、汚濁負荷特性を検討してきた。一方、木津川上流域には名張川以外にも、岩倉峡より上流部に伊賀市内を流れる木津川や服部川等が存在するため、令和５年度より、これら河川を対象に降雨影響時の汚濁負荷量調査を継続して実施した。平水時の負荷量は水文水質データベース（http://www1.river. go.jp/）の公開データから算出し、降雨時調査結果と比較した。

その結果、調査流域において降雨時に発生する負荷量および成分に関する知見が得られた。また、強い降雨時を含めたL-Q 式も得られたことから、岩倉峡より上流部から下流に流下する各水質（COD,T-N,T-Pなど）の汚濁負荷量について、流量観測値から大まかに推定することが可能となった。

② 琵琶湖南湖におけるカビ臭問題に関する調査研究【継続】

琵琶湖南湖を水源とする各水道事業者において、藍藻類を原因とするカビ臭物質が問題となっているが、近年の藍藻類の種の変化や形態分類の難しさ等により、その実態は不明である。また、関東では周辺の池から湖沼にカビ臭原因藍藻が流入しているとの指摘があり、琵琶湖の内湖等においても同様の事象が存在する可能性がある。一方、過去には南湖湖岸の水草繁茂域よりカビ臭原因藍藻を対象とする殺藍藻細菌が単離されており、カビ臭対策への活用も期待されるが、近年の実態は不明である。

上記の課題に対しては、遺伝子解析による検討が可能である。そこで、令和６年度は以下の調査研究を実施した。

１）ロングリードシーケンサーによる定量的細菌叢調査では、琵琶湖南湖のカビ臭原因藍藻および殺藍藻細菌の存在実態の把握を目的として、令和5年度に引き続き、南湖湖岸付近を対象に調査を実施した。ただし、通常の分析手法では定量が困難なため、別途、定量する方法を検討し、定量的比較を試みた。その結果、

本調査で採用した定量方法（案）が有する特徴について、幾つかの知見が得られた。また、琵琶湖南湖に存在するカビ臭原因藍藻および殺藍藻細菌について、遺伝的分類に関する知見が得られた。さらに、カビ臭合成遺伝子の存在状況に関する知見も得ることができた。

２）【京都大学共同研究】内湖等を対象としたカビ臭原因藍藻の分布状況調査では、琵琶湖南湖周辺の内湖等を中心に、カビ臭原因の存在実態の解明を目的として調査を実施した。その結果、調査した各内湖のカビ臭物質濃度およびカビ臭合成遺伝子の存在状況に関する知見を得ることができた。

③ 木津川カビ臭問題に関する調査研究【新規】

令和6年5～6月にかけて、京都府営水道木津浄水場の原水（木津川下流）から高濃度のカビ臭物質２-メチルイソボルネオール（2-MIB）が検出され、問題化した。そこで、近年ではあまり事例のない現象のため臨機の対応として、今後の影響を検討する上で必要な原因生物の特定を目的に、遺伝子調査を実施した。

その結果、2-MIB合成遺伝子を含め、既存の2-MIB原因藍藻・放線菌に関する遺伝子は検出されず、原因生物の種を特定することはできなかった。この原因として、採水時には既に原因生物の大幅な減少などにより、その細胞を採取できなかった可能性が考えられる。

④ 琵琶湖・淀川流域内の物質動態に関する情報整理【継続】

有機フッ素化合物（PFAS）等を中心に、公表できるよう流域内の様々な物質動態に関する情報整理等を進めている。

その他、平成26年度に発行した「琵琶湖・淀川流域における河川環境の変遷」の更新に向けて、準備的な検討を進めた。

（２）「琵琶湖・淀川流域水質保全に関する検討会」

琵琶湖・淀川流域において、現在起きている課題や将来的に問題となる可能性がある課題等を対象に、流域内の各研究機関の研究者らと共に連携強化を促進し、幅広い情報・課題を共有し検討する場として、「琵琶湖・淀川流域水質保全に関する検討会」を開催した。令和6年度は、「幅広いプラスチックごみ問題」について、様々な知見を共有し意見交換を実施した。

・第１回検討会　令和６年9月19日（参加研究機関：機構含む５研究機関）
・第２回検討会　令和７年２月19日（参加研究機関：機構含む４研究機関）

（３）調査研究の成果の発表及び社会活動等

① 論文発表

・和田「難分解性有機物とは何か-難分解性有機物の研究を基にした調査・分析の手引書作成-」，水環境学会誌，47(A)(10)，350-354，2024
・和田・沈・佐藤「琵琶湖底泥溶出試験による栄養塩および重金属の溶出フラックス評価」，環境技術，53(6)，295-305，2024

② 国内・国際学会・シンポジウム発表

・日本水処理生物学会第60回大会（2024年11月，兵庫開催）
類家・和田・中川「ロングアンプリコン解析による琵琶湖南湖・湖岸域の秋～

冬期の藍藻について」
・第59回日本水環境学会年会（2025年３月，北海道開催）
類家・和田・中川「DNA-MOCKと琵琶湖水を対象としたロングリードシーケンサーによる定量的細菌叢分析の試み」

③ 講演・社会活動等

・NPO法人日中交流推進機構　中信環境投資集団有限公司創新研究院　短期研修講義（2024年11月，大阪）
・日本水処理生物学会　第39回水処理生物基礎講座「生ぐさ臭・淡水赤潮の原因となる黄金藻類等の冬のプランクトンの観察・同定・培養・評価技術」講師・実習担当（滋賀県立琵琶湖博物館 共催，2024年11月，滋賀）
・(公財)国際湖沼環境委員会　2024年度JICA課題別研修「水資源の持続可能な利用と保全のための統合的湖沼・河川・沿岸流域管理」
「琵琶湖・淀川流域における水利用、水質浄化技術の紹介と水環境管理」講師(2025年2月，滋賀)

④ 出展等

琵琶湖・淀川流域の水環境啓発や機構のPRをおこなった。

１）琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウムin大阪【ブース出展】
✧パネル展示による機構事業の紹介、散策ブック等の刊行物の配布
（開 催 日：令和６年５月１８日
場　　所：大阪工業大学梅田キャンパス［OIT梅田タワー］）
２）「ごみゼロ大作戦×〇〇（かける まる まる）」at琵琶湖【ブース出展】
✧パネル展示による機構事業の紹介、散策ブック等の刊行物の配布
（開 催 日：令和６年９月２５日
場　　所：ピアザ淡海「ピアザホール」）
３）京都環境フェスティバル２０２５【ブース出展】
✧パネル展示による機構事業の紹介、散策ブック等の刊行物の配布
（開 催 日：令和７年２月１日
場　　所：京都府総合見本市会館（京都パルスプラザ））
４）「いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト」
（開催日：令和７年２月２２日
場　所：東京都国連大学ウ・タントホール）
✧三和理事長が、当機構理事長及び滋賀県理事員として
パネルディスカッション「世界における流域圏の取組み」にパネラーとして参加
✧ポスターセッションへの参加【ブース出展】
５）琵琶湖・淀川流域シンポジウム×ごみゼロ大作戦【ブース出展】
（開催日：令和７年３月１２日
場　所：京都市勧業館（みやこめっせ京都））
✧機構事業紹介パンフレット等の配布

（４）学術委員会の開催

令和７年度の『水質保全研究助成』の募集分野について議論いただくとともに、琵琶湖・淀川水系の水質保全のために実施している調査研究事業の内容を報告し、学術委員から幅広く指導や助言を得た。

・日　時：令和６年１２月２５日　午後１時３０分～３時４５分
・場　所：京都市大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）
・審議報告事項：
　令和７年度水質保全研究助成について
　水質保全調査研究について（報告）
　流域における水質保全に関する検討会（報告）
　こども水質保全活動助成の取り組みについて（報告）

（５）琵琶湖・淀川水質浄化研究所報告の公表

令和６年度の調査研究成果や活動実績についてとりまとめ、BYQ水環境レポートに掲載した。

２．水質保全広報・啓発事業

（１）ＢＹＱ水環境レポートによる水環境情報の広報

琵琶湖・淀川流域における水利用や水質の状況、変遷等の情報を一元的に取りまとめた年次報告書「BYQ 水環境レポート」を、継続して発行・公表している。

令和６年度は、令和５年度版を作成し、関係機関に印刷冊子を配布するとともに、幅広く一般広報する目的から、流域内の公立図書館等への寄贈を含む３００か所あまりに配布するとともに、機構のWebサイトにも「琵琶湖・淀川流域の水環境の現状」として、資料編とあわせ掲載した。

（２）ＢＹスタンプラリーによる水環境保全の啓発

市民団体が主催する水質保全活動への参加や水関連施設の見学を通して、流域住民が水環境への関心を高めていくことを目的に実施している。市民団体が主催するイベントや水環境関連施設の紹介マップを掲載した「かわら版」を年２回発行し、Web上で公開するとともに、市民団体や水環境関連施設等に配布した。

また、水環境関連施設のイベント情報についても機構Webサイトで紹介した。

・令和６年度（令和７年３月時点）の協賛グループ数は、協賛施設が21施設、NPO・市民団体等の協賛団体が、令和５年度に比べ５団体減少し４１団体となっている。
・令和６年度のＢＹスタンプラリー参加者は、猪名川流域で活動する市民団体への参加者が増加した効果により全体で５６名となり、令和５年度に比べ増加した。

令和5年度から休止中のWAQU２調査隊については、休止を継続した。

（３）水情報冊子「散策ブック」による琵琶湖・淀川流域の広報・啓発

琵琶湖・淀川流域内の河川に関する幅広い情報を紹介・広報し、流域住民の水環境への関心を高めていくことを目的に冊子を配布した。また、全２５巻すべて、機構Webサイトから閲覧、ダウンロードが可能としている。

イベント出展の増加が功を奏し配布機会が増えたことや、川歩きなどを楽しむ個人からの注文も堅調で、Web版のみならず冊子媒体の需要は根強い。

・令和６年度配布実績：件数１２件　冊数１００７冊

３．水質保全活動支援事業

地球温暖化や微量有害物質の問題等、琵琶湖・淀川流域が抱える水質保全の課題解決に資することを目的に水質保全研究助成を実施した。また、次世代の水質保全活動の担い手の育成を進めるため、琵琶湖・淀川流域の小・中・高・特別支援学校、NPO法人、市民団体等が行う水質保全活動に対して活動助成を行った。

（１）水質保全研究助成

令和６年度は募集予告を１月１０日に開始し、申請期間２月１日から２月２９日の間にあった応募数８件のうち、５件を水質保全研究助成選考委員会にて採択した。また、助成した研究内容について成果報告会を開催し、幅広く情報共有を図った。

【令和６年度募集分野】

① 湖沼・ダム湖等閉鎖性水域の新たな水質課題・視点に関する調査研究

閉鎖性水域（湖沼やダム湖等）の水質課題の解決策に資する研究を対象

例えば、プランクトン・底生植物等の異常繁殖の発生や異臭味問題など、近年の富栄養化に関する新たな水域現象・課題・制御技術・研究の切り口・研究方策、水域生態系での物質循環、エネルギー・物質・資源循環の健全化への対応策、適正な栄養レベルの提案などや行政施策等に資する調査研究を対象

② 気候変動に伴う水質変化など流域水環境管理のための調査研究

気候変動が及ぼす水温・水質（プランクトンを含む）影響に関係する水質汚濁・汚染負荷などに関する予測解析・評価、削減・制御技術や行政施策等に資する調査研究を対象

③ 安全で安心な水のための健康リスクに関する調査研究

水系病原性微生物、微量有害化学物質等の水環境中での挙動把握、人や水生生物への影響評価、削減・制御技術や行政施策等に資する研究を対象

【令和６年度採択助成研究】

・琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究
・近年の温暖化が琵琶湖北部の溶存メタン動態に与える影響の解明研究
・琵琶湖・瀬田川流域における抗菌薬による水環境汚染の実態解明
・水道原水中に含まれる溶存有機物間の相互作用と窒素系消毒副生成物の生成特性
・淀川流域下流オゾン処理場における定期調査とリアルタイム水質を用いた省エネルギーな制御法の開発

【令和６年度成果報告会】

令和６年度成果報告会は、当機構研究員による「機構水質浄化研究所の取り

組みについて～ ～三川合流付近における近年の平水時の現状～」報告をおこなうとともに、令和６年度に採択した５件の助成研究について、助成を受けた研究者がそれぞれの成果報告を、行政・事業体関係者、教育・研究者、企業関係者、市民などに対して行った。

また、会場の様子はライブ配信し、東京都や福岡県など琵琶湖・淀川流域以外からのオンライン視聴もあった。

・日　時：令和７年3月１４日　午後１時３０分～４時４５分
・場　所：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）
・参加者：会場には１９名の来場、オンライン視聴の申込みは５３件

なお、これらの助成対象研究の成果報告書を当機構Webサイトにおいて公開している。

（２）琵琶湖・淀川こども水質保全活動助成

申請期間を４月１５日から６月１０日までとして募集を行い、こども水質保全活動助成選考委員会において助成対象として採択された７件について助成をおこなった。

なお、当初５月３１日までとしていた申請期間を学校カリキュラムへの取り込みなど、更なる応募を期待して１０日間延長し、申請者数の増加を図った。

また、令和５年度に助成した活動についての成果報告会を、前年度に続き夏休み期間中に開催した。代表者や実際に活動した生徒によるプレゼンテーションなど、助成成果についての知見共有と熱気ある交流を図ることができた。

その報告会での報告を含む活動レポートは、当機構 Web サイトにおいて公開している。

さらに、令和６年度までに「こども助成」を活用した団体は延べ９２団体にのぼり、その一覧を、年度別、所在地ごとに検索できるよう、Google マップにプロットしたページを当機構 Web サイトにて、こどもたちの水質保全に係る取り組みの参考となるよう公開している。

【こども水質保全活動助成の視点・内容】

① 琵琶湖・淀川流域をフィールドとした体験的な学習活動が含まれること
② 上流・下流のつながりなど広域的な視点があること
③ 今後の水質保全活動の参考となるような創意工夫があること

【令和６年度採択助成活動】

・子どもたちによる「鴨川の水質と水生生物調査」
・天の川を遊ぼう！
・福住の清流　布目川に学ぶ
　絶滅寸前種「ヤマトサンショウウオ」の調査と保護
・ひらラボ河川ユースプロジェクト
・近畿「子どもの水辺」交流会in滋賀2024
・アクセサリーで学ぶ水質汚染ーこんなにも多い海・川のゴミー
・カモシネマ19

【令和５年度成果報告会】

・日時：令和６年８月２８日　午後２時～４時３０分
・場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）
・参加団体：発表団体６団体、行政関係者

事業報告の附属明細書

令和６年度事業報告について、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第３４条第３項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、附属明細書を作成しない。

令和７年５月
公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構